

平成19年度 宮内こども文化センターの管理運営に対する評価について

1 指定管理者

(1) 指定管理者	財団法人かわさき市民活動センター
(2) 指定期間	平成18年4月1日～平成23年3月31日
(3) 業務の範囲	宮内こども文化センターの管理運営に関すること 宮内小学校・中原小学校わくわくプラザの管理運営に関すること

2 管理運営（事業執行）に対する評価

評価項目	平成19年度管理運営の状況	評価及び指導
(1) 管理業務の実施状況		
施設の運営に関する職員体制に関すること	①人的能力の充実を図るため職員の児童厚生員資格取得を進めると共に、新規採用職員は業務に関する資格取得者から選考しました。②本部の職員体制については管理係長1名、区運営担当主査を3名配置して各館との連携強化を図りました。	職員の業務に関する資格の取得を進めたこと、また本部職員の充実によりかわさき市民活動センターが管理運営している他のこども文化センターとの連携を図ったことは評価できる。職員の研修については、スケールメリットを生かし、大規模な研修を実施し、また、指定管理施設の各区、施設単位での研修も実施することにより職員のスキルアップを図っていたことは評価できる。今後もこども文化センター及びわくわくプラザの職員配置が適切に行われるよう努めること。
施設の管理運営に対するニーズ等の把握に関すること	運営協議会の開催、こども会議の開催、団体利用の方々からの聞き取りの他、アンケート、意見箱の設置などにより、各年代からの要望を多方向から集め、ニーズの把握に努めている。	継続的に利用者や地域住民からの意見・要望等を聞きニーズの把握に努めていたことは評価できる。意見箱の活用等により積極的にニーズの把握に努めていたことは評価できる。
サービスの提供に関すること	新しい遊具の設置、クラブ室の様式替えなどを、利用者・利用団体からの聞き取りを踏まえ実施した。また、運営協議会や毎月のこども会議の決定を受け、飲食の場所やパソコン使用のルールを改善。より利用しやすい施設作りを目指している。	運営協議会やこども会議等を実施しサービスの提供を行っていた。また、ホームページの内容をより充実させていたことは評価できる。障害児については、障害児相談員を雇用し、必要に応じ職員の相談を行い障害児の対応を充実させていたことは評価できる。

事業の実施に関する こと	今年度購入したオーブンを活用したクッキングの開催や、利用児童からの要望が多いプラバン工作の実施回数を増やした。運動系でも、ミニサッカー大会を定例化するなどし、利用児童から好評を得ている。また、毎月の行事だけでなく外部講師を招いての工作実習、運営協議会との共催による夏祭りの開催・年末の大掃除、地域の方々との交流を目的としたハンドベル・琴による音楽朗読劇の開催の他、区行事のドッジボール大会や人形劇にも尽力した。	運営協議会等との連携により地域のニーズに合った行事を実施したことは評価できる。今後、ボランティアの活用にも努めること。
個人情報の取扱に関する こと	年度当初の職員会議において、財団法人かわさき市民活動センター個人情報保護方針を確認。名簿作成時や写真撮影時にも取り扱いの確認を行なっている。また、不要になった個人情報はシュレッダーで処分している。事務室に遊戯用パソコンが設置してある関係でこどもの出入りが激しいので、個人情報を含む書類の出しっぱなしや、パソコンで個人情報を開いたまま離席をしないなどを徹底している。	個人情報の取扱については、概ね問題なく処理されている。
施設の安全管理に関する こと	昨年度も行なっている、毎朝・夕の職員による目視点検の他に、今年度からは運営協議会において、夜間の利用団体の方にも退館時に館内の目視点検等の協力をとりつけ、破損・異常個所のチェックの強化を図った。また、利用者からの要望を最優先に整備に力を入れた。	毎日の清掃や始業時の点検を行い、安全性に努めている。また、宮内小学校わくわくプラザにセンサーライトを設置し、より安全性を高めていたことは評価できる。
(2) 利用状況		
①こども文化センター	延べ利用者数 21,849人 延べ団体利用数 6,072団体 (主な行事等) パソコンゲーム 人形劇 (特色のある行事) 音楽朗読劇	地域の状況に合わせた特色ある行事の実施している。また、地域との連携を図り行事を実施していることは評価できる。行事の実施に当たっては、具体的な数値目標等を設定し客観的な達成状況が分かるように心がけること。

②わくわくプラザ	<p>1 宮内小学校わくわくプラザ 登録者数 300人 延べ利用者数 15,753人 (主な行事等) ぬり絵 ハンドベースボール</p> <p>(特色のある行事) フラダンス鑑賞会</p> <p>2 中原小学校わくわくプラザ 登録者数 222人 延べ利用者数 11,646人 (主な行事等) ぬり絵 フェルトリース作り</p> <p>(特色のある行事) 人形劇</p>	<p>行事については、順調に実施されている。利用状況は具体的な数値目標等を設定し客観的な達成状況が分かるように心がけること。</p>																														
評価項目	平成19年度管理運営の状況	評価及び指導																														
(3) 収支状況																																
① 収支状況	<p>(単位：円)</p> <table border="0"> <tr> <td>収入</td> <td>指定管理料</td> <td>47,458,189</td> </tr> <tr> <td>支出</td> <td>人件費</td> <td>39,271,334</td> </tr> <tr> <td></td> <td>管理費</td> <td>3,064,419</td> </tr> <tr> <td></td> <td>事務経費</td> <td>1,937,847</td> </tr> <tr> <td></td> <td>その他経費</td> <td>1,436,042</td> </tr> <tr> <td></td> <td>青少年事業資産取得支出</td> <td>909,090</td> </tr> <tr> <td></td> <td>減価償却引当資産取得支出</td> <td>40,492</td> </tr> <tr> <td></td> <td>第1回精算に伴う返納金</td> <td>636,363</td> </tr> <tr> <td></td> <td>合計</td> <td>47,295,587</td> </tr> <tr> <td>差引</td> <td></td> <td>162,602</td> </tr> </table>	収入	指定管理料	47,458,189	支出	人件費	39,271,334		管理費	3,064,419		事務経費	1,937,847		その他経費	1,436,042		青少年事業資産取得支出	909,090		減価償却引当資産取得支出	40,492		第1回精算に伴う返納金	636,363		合計	47,295,587	差引		162,602	<p>事業実施後指定管理料の残額を戻入しており指定管理料の範囲内で事業の実施を行っている。今後は収支のバランスを考慮しつつ、事業をより充実させるため適切な経費の執行を図ること。</p>
収入	指定管理料	47,458,189																														
支出	人件費	39,271,334																														
	管理費	3,064,419																														
	事務経費	1,937,847																														
	その他経費	1,436,042																														
	青少年事業資産取得支出	909,090																														
	減価償却引当資産取得支出	40,492																														
	第1回精算に伴う返納金	636,363																														
	合計	47,295,587																														
差引		162,602																														

3 管理運営（事業執行）に対する全体的な評価

指定管理以前から委託事業者としてこども文化センター及びわくわくプラザの管理運営に携わっていた経験を生かし、また、全市58施設の内55施設の指定管理者としてのスケールメリットを生かし、施設ごとに偏りの無いサービスの提供を行っており、区ごとのこども文化センター合同行事の実施や全市規模の行事の実施を行っていた。行事の実施についても施設ごとに特色ある行事を実施していることは評価できる。また、各施設を統括する本部職員を配置することにより、他のこども文化センターと連携を図り管理運営を行っていたことは評価できる。

55施設の指定管理者としてのスケールメリットを生かし、安定した経営を行っていたことは評価できる。

4 来年度の管理運営（事業執行）に対する指導事項等

次年度も引き続き55施設の指定管理者として安定した経営、他施設と連携した行事等スケールメリットを生かした管理運営を実施すること。事業の実施に当たっては運営協議会を始め地域と連携し、より一層地域の状況に合わせた特色ある行事の実施等を行うこと、また目標利用者数を設定する等具体的な数値目標を設定し客観的に事業の達成状況が分かるようにすること。